

こんにちは
保健師です

予防接種を安全に受けるために

保健福祉課
保健指導係
☎ 52-2144

予防接種を上手に受けるためには、病気の特徴やワクチンの作用などを十分に知っておくことが大切です。

予防接種の考え方や実施方法についても、以前は法律による強制接種でしたが、感染症に対する世界的状況の変化や、ワクチンの副作用に対する意識の変化などから、平成6年に予防接種法の改正が行われました。改正の主な要点は次のとおりです。

それぞれの要点も念頭におきながら、子ども自身のためだけでなく、周囲への感染予防のためにも、納得したうえで受けるようにしましょう。

改正の主な要点

予防接種対象疾患の変化

イ 中止すれば再び流行が起こる恐れの大い疾患
 ・百日咳・ジフテリア・ポリオなど

ロ 現在でも重症の合併症が怖い疾患
 ・麻疹・結核

など

八 常に感染の機会があり、災害時の社会防衛上必要なもの
 ・破傷風

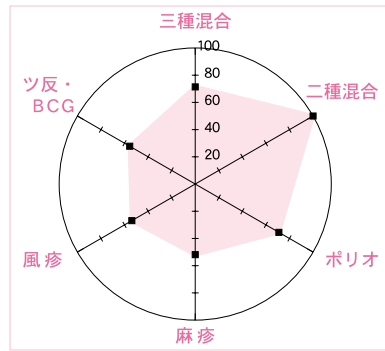
二 先天性の異常の原因となる疾患
 ・風疹

義務接種から勧奨接種へ国が必要な予防接種を勧め、国民がこれを受ける努力をするという接種形態(努力義務)に変わりました。

予防接種による健康被害に対する救済制度の存続
 集団接種から個別接種へ
 かかりつけの医師による個別接種の実施により、個別対応がしやすい接種方法に変わりました。

町の予防接種の接種状況

昨年の予防接種の接種率は、次のとおりです。二種混合の接種率が最も高くなっていますが、その他の接種は5〜7割程度の接種率に止まっております。流行がおこった場合、感染による影響が危惧されます。



流行を防ぐためには地域全体の接種率の状況に左右されるため、もう一度、母子手帳を確認し、受けていない予防接種があった場合は、体調の良い日を選び、早めに接種を受けましょう。

病気の特徴と 予防接種による副反応

予防接種の対象となっている病気は、いずれも感染すると症状が重く、何らかの合併症を起こす危険性もあります。予防接種の副反応を心配し、消極的になつていない場合もあるようですが、現在の予防接

	病 気 の 概 要	副 反 応
ジフテリア	主な症状：発熱・嘔吐・頭痛および咳、鼻炎、鼻孔周囲のただれなど 重症例：心筋障害、神経マヒなどを起こすことがある	三種混合ワクチン注射部位の発赤、はれ、しこりなど(しこりは数ヵ月残ることもあり)
百日咳	かぜに似た症状に始まり、激しい咳が発作的に起こる(乳児は呼吸困難を起こしやすく、肺炎や脳症を起こすことがある)	
破傷風	あごや顔面の筋肉のけいれんにより、口が開かないなどの症状のあと、全身のつっぱり、けいれんを起こす	
ポリオ	かぜに似た症状が現れ、頭痛や嘔吐、マヒが起こる	極めてまれに(550万人に1人)ワクチンによるマヒを起こすことがある
麻疹	主症状：発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹 合併症：気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎など起こしやすく、毎年50人前後が死亡している	発熱、麻疹に似た発疹など、まれに熱性けいれん、ごくまれに脳炎の発生もある
風疹	主症状：軽いかぜに似た症状で始まり、発疹、発熱 合併症：関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎など 妊婦の感染～先天性風しん症候群→心臓病、白内障、聴力障害を有する児の出産の可能性が高くなる	発熱、発疹、リンパ節のはれなど
結核	せきや発熱など (抵抗力が弱いため、全身性の結核症や、結核性髄膜炎になることもある)	接種局部に赤い発疹ができ、小さく膿(ウミ)をもつことがあり、1～3ヵ月くらいで治る

種の副反応の頻度は少なくなつていきます。しかし、人間の体は一人ひとりで異なりますので、かかりつけの医師とよく相談のうえ受けましょう。